



1_WALL

第9回写真「1_WALL」展

2013年9月30日(月)~10月24日(木)

公開最終審査

2014年4月3日(木) 18:00~21:30

FINALISTS ※五十音順

伊澤絵里奈 李東雄 葛西優人 千賀英俊 富谷龍樹 宮崎いづ美

Grand Prize REPORT
Photography

受賞作

『Marginal Man is Dead』

混沌に名前を与えたくて撮っていた。
生きるのが巧くなったが為境界線を見失い、世界は色彩を失った
そしてゆたかさを手にした故に私はそれに縛られ、秩序はそれに靡いた
栽培して除草して大人になっていく
渴きの所在を知った
マージナルマンは嘔いながら死んでいった
緩やかに線を引きながら水平線とシンクロする
新しい世界が始まっていく
やっと 何かを愛せる気がした

第9回写真「1_WALL」グランプリ

葛西優人 | Yuto Kasai

説得力のある展示と

期待値の高さでグランプリを獲得!



葛西優人 Yuto Kasai
1988年生まれ。
東京理科大学卒業。



審査員コメント ※五十音順、敬称略

鷹野隆大 (写真家)

「プレゼンは負い過ぎた印象だったが、展示が非常に堂々としているところが潔くてよかった。未知数な部分もあるが、写真というものにより深く関わり軸足を置いている感じがする」

土田ヒロミ (写真家)

「精一杯切実な叫びだと思うが、作品に“わかる人だけわかってくれ”というところがあって、甘えのように感じられた。その一線を超えていくといだらうなという、期待値が高い人である」

姫野希美 (赤々舎代表取締役、ディレクター)

「展示の4点の並びに説得力があり、写真に切実なものが感じられた。写真でしかできないようなことを見せてくれるのではないかという期待がある」

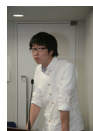
増田玲 (東京国立近代美術館主任研究員)

「写真で見せたいことと言葉で語られていることが噛み合わない感じはあるが、ポートフォリオから展示の間に、自分の写真をきちんと見て選んで辿り着いた筋道が見えた。先がありそうと一番感じられた」

町口覚 (アートディレクター、パブリッシャー)

「展示で何を大きくしたいのかをちゃんと選んでいて、大きく伸ばしたことによって印象が変わりよくなった。ポートフォリオから展示への脱皮がすごく、個展を一年後に見たいと素直に思えた」





李 東雄 Dongwoong Lee

『Korean 20's』



兵役や大学入試に対するストレスなどを抱える、韓国20代の若者。写真を通して自分を表現することで、状況を変えることはできないだろうか。そして、距離を置いてきた日本の中の韓国社会の若者を撮ることで、自分自身も見つめ直したい。

〈質疑応答〉

- 姫野：シチュエーションやポーズはディレクションした？
- 李：基本的には自分をどういう風に見せたいかというのを出してもらった。
- 土田：この人達は兵役から逃げる、受け入れる意識を持っていない人なの？
- 李：逃げられない現実があって、システムに入ると人が変わることもある。意識している人は批判的な意見を持っているが、変えられる状況ではない。

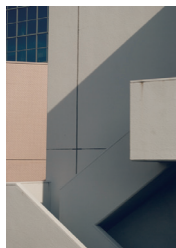


1 ↑



富谷龍樹 Tatsuki Tomiya

『case』



自分の視線とカメラの視線の違いを使うことで、見えているように見えないものを意識する。自分の目線だけでは見ることのできない風景を、撮像素子に焼き付けて残す。そうして残ったもののほうが、風景そのものに近いのかもしれない。

〈質疑応答〉

- 町口：ポートフォリオにはもったいいものがあつたけど、展示をこの6点にした理由は？
- 富谷：記憶にない、見ているだけのものからは想像のつかないと思ったものを選び、壁面の制約と鑑賞に必要な大きさも考えた。
- 土田：真ん中の写真は意識しないで撮れるはずがない。自分の記憶を超えたものとは矛盾しているのでは？
- 富谷：露出以外いじってない。意識しなくても垂直が出てしまうのもあり得ると思う。

2



千賀英俊 Hidetoshi Senga

『ブラジリアン・ラブソディー』



日系ブラジル人が多く暮らす団地は、色々な文化と人が混在する場所である。全く違う環境で育った彼らに、真正面から向き合っていきたい。彼らの故郷であり自分には外国であるブラジルと同時に展示して故郷とは何か、日系人という血のつながりを意識して表現してみたい。

〈質疑応答〉

- 町口：展示の仕方が李さんと同じに見えてしまうが、こういう展示が流行っているの？
- 千賀：基本は一列に展示するけど、グループ展の制約がある中で近寄りたり離れて見てもらったりなど、展示にリズムを付けたかった。
- 姫野：ほかの被写体でもいいものを撮れると思うけど、日系ブラジル人にこだわる理由は？
- 千賀：最初のときに住人と揉め、これでは次から撮りづらくなると思いフィルムを渡したことがあった。渡した時にここを絶対撮ろうと思い、ライフワークにしていくと決めた。



3



宮崎いず美 Izumi Miyazaki

『世界の私』



私よりもかわいい、例えばウサギがその子の周りに集まる様な女の子に嫉妬する。でも、写真を使ってそんな人も超越する、世界で一番かわいい私がいる世界を作る。継続して見てくれている人がいて、私の為だけでなくできてくる作品と世間の繋がりがおもしろい。

〈質疑応答〉

- 菅野：“かわいい”とはどういうこと？
- 宮崎：プロコリリーが寄ってくる人は絶対いないので、それならウサギが寄ってくる人を超えられたいと思、かわいいなと思った。
- 増田：プロコリリーの写真と同じ服だが、作者であると同時に作品としてこの場にいるのか？ 自分自身のほうが作品化している感覚はある？
- 宮崎：今日はちょっと狙ってきていて、そういった感覚はあると思う。
- 鷹野：20年後も同じこと続けているかどうかと考えたりする？
- 宮崎：やっているとしたらおもしろいけれど、その前に飽きてやめていると思う。

4



葛西優人 Yuto Kasai

『Marginal Man is Dead』



自分の中の誰かを殺して生きていても、心が乾いた感じは消えない。やめていた写真をまた撮りたいと、避けていた“人”との交流から気付く。殺してしまった自分の中の誰かに弔いを、そして誰かに届いてほしい。写真は世界を変えていく、少なくとも私はそう思う。

〈質疑応答〉

- 姫野：作るというのと違うところで写真と関わっている感じだけど、作品を作るという感じは強い？
- 葛西：気持ちを共有したいとか、人とつながる手段として写真を見せている。まとめて出す時に作品という形、「作品」という言葉を借りている感じだ。
- 土田：切実な叫びだと思うが、一線を越える覚悟がないと表現としてストレートに伝わらない。
- 葛西：ポートフォリオ提出後も撮っているが、独りよがりではなく普遍性を帯びたものが撮れているのではないかと気はしている。



5



伊澤絵里奈 Erina Izawa

『うつろに、溶け込んで』



友人の指摘で弟と仲がよいことを自覚し、より興味を持った。弟という存在を写真にして考察しても“家族”なのか“男性”なのか、答えはまだ見つからない。人の特定要素である顔を見えない写真が多いのは、無意識に弟を消すことで私自身を見つめていたのかもしれない。

〈質疑応答〉

- 土田：自分の女性性のある罪というかやらしさ、恐ろしさみたいなものが大きな動機だと思うけど、対象ときちんと向き合わず曖昧な状態でやっていることが作品を曖昧化させている。そういう意識を持って組み直してみるとおもしろい個展ができるかもしれない。
- 伊澤：ありがとうございます。
- 菅沼：個展に至るまでの間に、ここから変化しそうな予感はある？
- 伊澤：来春、弟が社会人になり生活がガラッと変わるので、もしかしたら何か変化があるのかなと考えている。

6

↑

■審査員の感想

町口さん：「写真点数が総じて少ない感じで、展示が均一化されている印象を受けた。選ぶのが非常に難しい」。増田さん：「展示を見た印象でいうと、がっかりした人はいなかった。二次審査からの間考えた結果、小さくまとまったかなという人もいれば、可能性がありそうな人も」。鷹野さん：「平均レベルが高いと思った。ポートフォリオをめくって見ると展示で印象が変わる人がいたのが気になる」。姫野さん：「人を撮った作品が残っているのがよかった。プレゼンを聞いて言葉によって見え方が広がったりしたが、それが迷いにもなって正直言って難しい」。土田さん：「レベルが高くバリエーションのある200点近く見た中から、そのバリエーションをうまく6点に収めきれなかった。優劣を付けにくい、難しい写真を選んできました」。続いて、ファイナリスト一人ひとりについての感想を聞いていく。



○李さんの作品について。町口さん：「ポートフォリオはインパクトあってよかったが、プレゼンで“モデルと共同で作りました”的な感じが残ったのが残念」。姫野さん：「ポートフォリオは双方にエネルギーがあっただけよかったが、展示ではそれが違うものに見え平板になった」。増田さん：「一枚一枚の写真を置く位置がいい。ただ、上手くまとまらなかったために、自分の個性を表現するという出発点から方向が変わってしまった」。土田さん：「確実に選ばれて残ってきた写真だが、背後にシリアスなものも少し見せられるような構造を持つとよかった」。鷹野さん：「ポートフォリオには“はみ出すもの”みたいなものがあつたが展示ではそれがなくなり、プレゼンでは言葉で包み込もうとして、“はみ出す”感じが消えていく不安がある」。

○富谷さんの作品について。増田さん：「意識しないと撮れないようなものを、記憶に残らないほど大量に撮ったので覚えてないというなら納得できる。デジタル時代の新しい現象かもしれない」。鷹野さん：「おもしろいけど、本人の意識が追いついていない。大量に撮れるデジタルカメラだからこそその写真、今までにないひとつの例証」。土田さん：「初歩的な作業をおもしろがっているが、完成度も含め量的な問題も考えたらもう少し撮ってほしい。撮っていく中で変化することに期待」。町口さん：「ポートフォリオにいいのが多い中、セレクト理由が曖昧。こういう写真だからこそ、コンセプトはしっかりしたほうがいい」。姫野さん：「撮ることで見えてくるものに本人がおもしろい手応えを感じていて、そこに期待感がある」。

■審査員による投票

ファイナリストの作品についての感想が出そろったところで、審査員が各2名ずつ、グランプリ候補を選んだ。

鷹野：宮崎／葛西

土田：李／宮崎

姫野：千賀／葛西

増田：葛西／伊澤

町口：葛西／伊澤

集計：葛西4票／宮崎2票／伊澤2票／李1票／千賀1票

葛西さんに4票入ったが、ただひとり票を投じなかった土田さんは葛西さんについて「期待値はあるけれど、ここに現れているものを持っている不十分さを考えると入れられない」と発言。それに対し、町口さんが「展示で何を大きくしたいのかをちゃんと選んでいる。プレゼンは“そこは言うなよ”という感じもあったが、ポートフォリオから展示への階段が見えて、6人の中ではイチオン」と応援し、増田さんは「ポートフォリオから展示の間に筋道があり、葛西さんが一番その先がありそうと感じられた」と述べた。ここで進行の菅沼が、ほかの審査員に投票したふたりの内どちらを推すか聞いた。鷹野さんは「難しい選択だが、ひとつの決め手は展示がどういう風に見えるか。おもしろいと思えたふたりを推したが、写真により深く軸足を置いている葛西さんを推したい」と表明、姫野さんも「葛西さんの写真には切実なものを感じていて、今はまだナイーブで甘さと捉えられるものもはらんでいるが、写真でしかできないことを見せてくれるのではという気持ちがある」と葛西さんを推した。土田さんは「若い人を対象にしているコンパだから“私性”みたいなものに執着する表現が出てきて不思議ではないが、あまりに長く続いている感じがする。僕としては、そこから早く出ると言いたい。そういう意味では“私”にこだわっているようでステージが違う、宮崎さんの突き抜け方を評価したいと思う」と宮崎さんを評価した。一通り意見が出たので、菅沼が「鷹野さん、増田さん、町口さん、姫野さん、1票ずつ入っているの、グランプリは葛西さんでよろしいでしょうか？」と問いかけたところ、土田さんから「厳しくいえば、葛西さんについては過剰に思いやった甘い評価ではないかという気がする。彼自身の持っている問題は大きいので、こういう評価をすることで彼が“このレベルでいいのか”と止まってしまうのではないかと心配。もうちょっと鞭打ちたいという気がしますね」と発言。それを受け「それは彼に今すぐよく伝わったのでは」と菅沼が葛西さんに向かって確認し、第9回写真展「1_WALL」グランプリは葛西優人さんに決定した。



れるものもはらんでいるが、写真でしかできないことを見せてくれるのではという気持ちがある」と葛西さんを推した。土田さんは「若い人を対象にしているコンパだから“私性”みたいなものに執着する表現が出てきて不思議ではないが、あまりに長く続いている感じがする。僕としては、そこから早く出ると言いたい。そういう意味では“私”にこだわっているようでステージが違う、宮崎さんの突き抜け方を評価したいと思う」と宮崎さんを評価した。一通り意見が出たので、菅沼が「鷹野さん、増田さん、町口さん、姫野さん、1票ずつ入っているの、グランプリは葛西さんでよろしいでしょうか？」と問いかけたところ、土田さんから「厳しくいえば、葛西さんについては過剰に思いやった甘い評価ではないかという気がする。彼自身の持っている問題は大きいので、こういう評価をすることで彼が“このレベルでいいのか”と止まってしまうのではないかと心配。もうちょっと鞭打ちたいという気がしますね」と発言。それを受け「それは彼に今すぐよく伝わったのでは」と菅沼が葛西さんに向かって確認し、第9回写真展「1_WALL」グランプリは葛西優人さんに決定した。

○千賀さんの作品について。鷹野さん：「ポートフォリオはよかったが、展示で22点同時に対面すると、それぞれの世界が読み取れず、一つ一つの写真を殺してしまった」。町口さん：「人と向き合っている正統派の写真。写真からくる視線がポートフォリオだと合うけど、展示だと合わずに弱くなっている」。土田さん：「現実にはカメラを持って割り込んでいく能力はとても高い。場所の特殊性を考えると、異質なものをどう受け入れているかが見えてくるといい」。増田さん：「展示でやりたいことはわかるが、作品の間隔や細かいディテールは李さんより完成度が足りない。ただ、人柄の表れた展示のようにも見えて、そこは好意的に見たい」。姫野さん：「ポートレートもいいし、室内を撮った風景もすごく濃密でよく、今の時点でシリーズとしての完成度はある」。

○宮崎さんの作品について。町口さん：「挑戦的なのはいいが、今はメディアがいっぱいあるから全然違うところでやったほうがおもしろいのではないか」。姫野さん：「拡散していくことが写真の機能とも思うが、自分のほうが作品化していくような、そのこととセルフポートレートを撮っていることがしっくりせず戸惑いを感じた」。鷹野さん：「プロコリミーみたいにバージョンがたくさん出てくるような、いろんな“私”が見られたらおもしろい」。増田さん：「非常に思い込みの強い独特な人である一方、客観的な分析もできるのは驚き。写真はさておき、現象としておもしろい」。土田さん：「ポートフォリオは写真を楽しんでいる面白さがあった。自分のイメージをアイコン化という形で拡散していくのを意識化していることがおもしろかった」。

○葛西さんの作品について。鷹野さん：「プレゼンは負い過ぎた印象だが、写真が乱暴でいい。滲み出てくるみたいなものがちゃんと展示されていた」。町口さん：「ポートフォリオは見開きで小さく1点だったが、展示で写真が大きくなって脱皮した」。姫野さん：「展示の4点の並びに説得力があって、これから撮るものも含めて期待している」。土田さん：「期待値は高いが、展示に不満。データとして非常に少なく削ることで“わかる人だけわかってくれ”というのが強く、甘えているような感じがする」。増田さん：「何か道を見つける強い思いで撮っているのに、言葉が割と一般的な物語になっている」。

○伊澤さんの作品について。土田さん：「一生懸命だけど一線を越えられないファミリーな領域の中で留まっていることは、表現者としてのある種の限界を感じる」。町口さん：「個展を見てみたいというものもあるけど、ポートフォリオから出てくる曖昧な感じがすごくよかった」。鷹野さん：「恋人とも違う、この距離感で表現されているものは少ない。セクシャリティなどが曖昧になっているから現れている」。姫野さん：「近い存在なのに遠い感じがあって、それを湛然に追うところに好感持てる」。増田さん：「顔が遮られていたり写ってなかったりすることで、撮っている人と撮られている人の関係性の写真になり、他人が入りこむ余地がある」。

■出品者インタビュー

李 東雄

厳しかったですけど、勉強させていただき、本当に貴重な時間だったと思います。これからどうなるかわからないけど、いろいろアドバイスしていただいたので、それを参考にしながら新たな写真を撮っていきたくと思っています。

富谷龍樹

撮影してからこういうのが出てきたのはなんだっただろうと逆算して考えているので、そこを考へがまともなまま応募してしまっただけです。他人から作品がどう見られるのかを考えるのが苦手でずっと研鑽しなくてはなりませんが、展示できたのはよかったです。

千賀英俊

審査会のあれだけ言葉が飛び交うところもあり無いと思うので、楽しかったというのが第一の感想です。自分に向けられている言葉も大切ですけど、ほかの人たちの話もすごくおもしろかったですし、いろいろと勉強になりました。

宮崎いず美

一次審査も通ると思ってたので、ファイナリストまで進めたということが驚きました。最終審査で2票入れてくださって、そこにきてやっと悔しいという思いが沸いてきました。精一杯やっつもりですが、もう一押しがんばれたらよかったなと思いました。

葛西優人

最初から最後まで、まさか自分が賞をいただけると思っていませんでした。身の引き締まる思いですが、未だに信じられない感じで早く受賞の実感が沸いてきてほしいと思っています。これからは愚直に写真を撮っていきたく、一年後の展示に向けては自分本位ではなく、誰かに届けたいという気持ちをすごく大事にして作っていきたくと思っています。

伊澤絵里奈

弟を撮っている作品で一方からしか見てない部分も結構あるので、審査員の方を含め、いろいろな方から意見を聞ける機会をいただけたというのがすごく大きく、うれしかったです。弟はもちろん、興味を感じたものの写真をこれからも撮っていきたくしています。

〈文中一部敬称略 取材・文／松尾由紀子〉

■お問い合わせ先

株式会社リクルートホールディングス ガーディアン・ガーデン
〒104-0061 東京都中央区銀座7-3-5 ヒューリック銀座7丁目ビルB1F
TEL:03-5568-8818 FAX:03-5568-0512 http://rcc.recruit.co.jp
Twitter:@guardiangarden Facebook:facebook.com/guardiangarden.tokyo

Guardian Garden

RECRUIT